

9/14(日) 「千年の風」館で観月会

昔ながらの街並みが残る御所通りの「千年の風」館で、観月会が行われました。観月会は、NPO 法人「菊池まちづくり千年の風」が企画したもので、1348年、隈府に入城された懐良親王を慰めるために月見の宴を開いたという故事に習い、仲秋の名月を楽しもうと催されました。

参加者は、琴の音色が流れるなか NPO の会員手作りの料理と古典遊技の「投扇興」で風流なひとときを味わいました。

この「千年の風」館は、80年前に建てられた料亭を NPO の会員が改修作業を行ったもので、まちづくり活動をはじめ、さまざまな行事に利用される予定です。

利用の問い合わせは、NPO 法人「菊池まちづくり千年の風」事務局 ☎(25) 1131・Fax(25) 1133 まで。



御所通りにある「千年の風」館であった観月会

9/19(金) 旭志クラブが第41回県軟式野球選手権兼読売旗軟式野球大会での初優勝を報告



優勝の報告に訪れた旭志クラブのメンバー

旭志クラブ(沢山進一監督)が、県軟式野球選手権兼読売旗軟式野球大会で念願の初優勝を果たし、その報告に福村市長を訪れました。大会には県内から73チームが参加し、試合はトーナメント方式により8月から9月にかけて県内各地で行われました。

決勝戦は、熊本市の水前寺球場で行われ、初めに益城球友の投手の乱れを逃さず3点をあげるなどして6対1で快勝し、初優勝を決めました。

沢山監督が「チーム一丸となつての勝利だと思います。特に若いメンバーが頑張ってくれました。チームも33年目を迎えました。今後も伝統を守り、活動を頑張っていきたいです」と報告すると、福村市長は「念願の初優勝おめでとうございます。今後の活躍を期待しています」と優勝をたたえました。

9/20(土) 平成20年度菊池市金婚夫婦表彰式

菊池市金婚夫婦表彰式が、熊本日新聞社の「第50回金婚夫婦表彰」と併せて、菊池市文化会館で行われ、今年は189組の夫婦がめでたく金婚式を迎えました。

式典では、金婚夫婦を代表して七城の霍田嘉穎さん・節子さん夫婦に表彰状と記念品が授与され、泗水の上田照夫さん・昌代さん夫婦が代表謝辞を述べました。

その後、50年の永きにわたって連れ添ってきたお互いへの感謝の気持ちを込めて、佐藤隆亮さん・澄子さん夫婦が「旦那様から奥様への感謝の言葉」を伝え、同じく旭志の工藤道昭さん・千歳さん夫婦が「奥様から旦那様への感謝の言葉」を伝えました。

アトラクションでは、旭志の中尾のみさんを代表とするパーステムジカの皆さんによる、懐かしく心温まる演奏があり、参加者は楽しいひとときを過ごしました。



上田照夫さん・昌代さん夫婦による「代表謝辞」

9/10(水) 戸別訪問で下水道をPR



菊池市役所玄関前であった出発式

9月10日の「下水道の日」に併せて、菊池市下水道組合員や市職員などが「設置可能な場合は、なるべく早く下水道へのつなぎ込みをしてください」と、啓発チラシなどを配りながら菊池市内の対象家庭を訪問し、下水道への接続PRを行いました。

菊池市役所玄関前であった出発式では、本藤 徹組合長が「交通事故などには十分注意しながら、しっかりと水洗化へのPRをしてきてください」とあいさつし、早速、各班に分かれて菊池市内の対象家庭の訪問に出発しました。

この戸別訪問は毎年行われており、その積み重ねで、菊池処理区の水洗化率は現在88.6パーセントとなっています。

9/4(木)・9/11(木) 旭志中学校で乳児ふれあい学習

乳児とのふれあい学習が2日間にわたり行われ、旭志中学校(水田智英校長)の2年生52人が命の大切さなどを学びました。

1日目は、熊本大学医学部保健学科准教授の坂梨京子先生から講話があり、「今、生きているだけで100点満点だよ」というお話や出産のビデオを見て「命の尊さや喜び、生きる力について」学びました。また、妊娠シミュレーターを使った妊婦体験などを行い、妊婦さんの大変さを知りました。

2日目は、生後3～10カ月の赤ちゃんとお母さんの12組が協力し、乳児とのふれあい体験が行われました。生徒たちは、赤ちゃんを抱っこしたり、衣服の着脱やオムツ交換を体験したり、たくさん書き込まれた母子健康手帳を見たりしながら、お母さんから出産や育児についての話を聞き、命の尊さ、親になることへの責任や育児の喜び、苦労を学びました。

最初は恐る恐る赤ちゃんに触っていた生徒も、学習の時間が終わるころには、自分から声をかけたり、抱っこしたりするようになり、生徒からは「ふれあい体験が始まるまでは、赤ちゃんにどのように接したら良いかわからず不安だったけど、体験が始まると、だんだん慣れてきて、もっと触ってみたいと思うようになりました」といった声が聞かれました。

また、今回協力したお母さんからは、「自分も赤ちゃんが生まれるまでは、生徒の皆さんと同じように、とても不

9/6(土)・7(日)

菊池市青年団による清掃ボランティア活動

菊池市青年団(高木裕二団長)が、旭志道の駅や孔子公園、鴨川公園、菊池市文化会館前県道の清掃活動を行いました。菊池・七城・旭志・泗水の支部ごとに行われたもので、主に敷地内や道路沿いのゴミ拾いが行われました。

清掃終了後には団長たちは「タバコの吸殻や空き缶などのゴミが多かったように思います。小さな吸殻ひとつでも、拾い集めていくとかなりの量になりました。今回の清掃できれいになったと思うので、来場者や歩行者の皆さんが気持ちよく利用できるとうれしいです」と汗を拭きながら話されていました。



菊池市文化会館前県道の清掃をする団員たち

安でしたが、だんだん我が子が愛おしくなりました。生徒も真剣に興味をもって質問したり、赤ちゃんを抱っこしていました。今日参加して楽しい時間が過ぎました」といった声がありました。

この事業は、思春期の子どもたちが乳児とふれあうことで、「命の尊さや子育ての大切さ、親としての責任や喜びについて」考える機会とするため、市と中学校の共催で毎年実施されています。



泣く赤ちゃんをあやそうと抱っこする生徒